

やっと始まった仮設の朝市会場にて

令和六年九月 発行

区政レポート

世田谷区議会議員 和田ひでとし通信

第三十四号

今年も夏の猛暑が益々厳しくなり、さらに過去最大級の台風やゲリラ豪雨などによる被害も全国各地で発生しており、被害に見舞われた皆様には心からお見舞い申し上げます。私たちは、地球温暖化による気候変動の事実をしっかりと受け止めなければならないとともに、暑さ対策や風水害などに対する認識を見直す時が来ているのではないでしょうか。

今回は私のこの夏の、文教常任委員会行政視察と会派視察を中心にまとめてみました。それぞれ世田谷区政に少しでもつなげていければと思います。

8月7~9日

自民党世田谷区議会 会派視察

自民党区議団14名で、今年は糸魚川大火からの復興、能登半島地震周辺自治体の対応を中心に、災害に対する備えさらに高齢者・障がい者施策等を駆け足で視察し3日目の午後は有志で輪島市まで行ってきました。



糸魚川大火からの復興

糸魚川市駅北ひろばキターレ

平成28年12月、駅北側が大火に見舞われました。市は復興に向け、被災者との対話を繰り返し「復興まちづくり計画」を策定、大火からの町の再生に取り組み、災害に強い安心安全な暮らしの再生を果たしました。災害時の消防・防災体制、避難所運営、復興まちづくりについて糸魚川市駅北ひろばキターレでお話を伺いました。



糸魚川市駅北ひろばキターレ エントランスホールでの展示



焼失した街並みから見事に復興

糸魚川市は昭和3年・7年・29年と過去にもたびたび大火に見舞われており、大火につながった原因として、地理的問題や建築物の防火対策が不十分であったといわれますが、過去にあった被災経験の風化も、一軒の火事が大火へとつながってしまった要因の一つです。過去から学び、被災経験を教訓とすることで、災害に強いまちづくりを目指しています。

世田谷区にも木蜜地域がまだ多数点在します。このような事例を他人事とせず、首都直下地震が近い将来予想される中、狭あい道路の解消、初期消火体制の強化など、根本的な災害に強い街づくりを考えていかなければなりません。



能登半島地震への対応

小松市役所

小松市でも能登半島地震で震度5強の揺れを記録し、1600件超の建物に損壊が生じるなど大きな被害があった。地域防災力向上の取り組みの成果と課題等、災害時の防災体制および、被災当初から現在までの対応について伺いました。

小松市では地域防災力向上の動機付けのため、毎年各自主防災組織の活動を、基礎評価と訓練評価に別けて評価し、自主防災組織のランクを決定するランクアップ制度を導入し、地域防災力の向上に努めていました。

石川県庁

知事室を表敬訪問し、馳知事にお話を伺いました。



金沢市役所

金沢市でも震度5強の揺れを記録、6000棟近くの住宅に被害が発生しました。旅行者を中心に金沢駅周辺で大量の帰宅困難者が発生し、住民向けの避難所を圧迫したことや、正月休みに伴う職員の帰省なども相まって、避難所の約4割が開設されない想定外が起こったそうです。市は今後地域防災計画の見直しにつなげていくということです。



やはり「自分たちのまちは自分たちで守る」、このことを基本とした自主防災組織が大変重要であることを再認識しました。特に避難所開設については、発災当初の最重要課題であり、改めて体制整備を考えていかなければなりません。
避難所の開設は世田谷区では各地区での避難所運営委員会にゆだねられていますが、まだまだ課題山積の中、能登半島地震のように元日に発災など、誰にも想定できないことを考えていかなければなりません。



図書館のない街、奥沢・東玉川

これまでの奥沢図書館は建物の耐震不足により、現在は旧奥沢まちづくりセンターの建物で貸し出しカウンターのみの仮運営となっております。



図書館は本の貸し出し、閲覧だけではなく、幼児から高齢者までの大切な居場所として、また小学生・中学生・高校生などの自習や勉強の場として、幅広い世代の皆さんが利用する大変重要な公共施設です。

その図書館をなんとか元のような**開架図書館**として奥沢地区に復活してほしいという地元の皆さんからのご相談を受け、まずは区への要望書を「奥沢に開架図書館を求める会」の皆さまから区長・教育長宛に提出をしていただきました（7月19日）。要望書の提出については様々な地元団体の賛同も得ており、何とかいち早くこの事態を打開できるよう、私も地元密着の区議として、全力で取り組んでまいります。

今後はさらに区議会への陳情提出のための署名活動などもお手伝いしていきます。

ご意見・ご感想はこちらまで　〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 1-40-2　TEL 03-3720-3542　FAX 03-3720-6928

表面からのつづき

「ごちゃまぜ」で暮らせるまち

白山市

白山市に本部を置く社会福祉法人佛子園は、従来の福祉サービスに加え、市や地元大学との連携のもと、障がいのある人もない人も分け隔てなく集える拠点の整備に力を入れていました。同法人の「Bs」および「山草二木行善寺」には障がい者向けグループホーム、サービス付き高齢者住宅、学生住宅、自治会室、診療所、スポーツジム、保育園、温泉、食事処などがあり、それらのほとんどの施設で障がい者を雇用しています。特にスポーツジム、温泉、食事処は一般の人々も利用できるため、普段から子ども、高齢者、障がいのある人ない人が分け隔てなく交流する姿が見られ、まさに「ごちゃまぜ」で暮らせるまちづくりを展開しています。



「行善寺やぶそば」
大人も子どもも“ごちゃ混ぜ”状態



今回訪問した「Bs行善寺」は障害のある人もない人も老若男女、いろいろな人が自然に集まる場所を中心に、人と人との関りを通して、だれもが居心地のいい街づくりをめざすプロジェクトは、世田谷区でもこれからの街づくりを考えるうえで、例えば公共施設の複合化など、大いに参考になりました。

民間と連携した健康寿命を伸ばす取り組み

小松市役所

小松市は市民の健康寿命延伸に向けて、様々な民間企業と包括協定を締結、フレイル予防の共同研究に取り組むなど、実証によって得られるデータや知見を基にした健康増進施策のアップデートを進めています。eスポーツというと競技色を強く感じますが、市ではこれを介護予防に取り入れて実施しています。体験するまでは「ちょっと難しそう」という声もありましたが、体験後は「とても楽しかった」と大変好評です。



市では機器購入などの補助金を出し、高齢者のためのeスポーツ介護予防講座を実施、90歳代の方でも楽しんでいるということです。

eスポーツは新たな介護予防としてだけではなく、多世代交流・共生社会のツールとして注目されています。



最近の研究ではeスポーツの実施が、高齢者の記憶力向上や介護予防にも効果があることが報告されていますが、町会や高齢者クラブでの実施には機器購入に対しての行政の補助金は欠かせません。

能登半島地震の被災地、輪島市を訪問

輪島市

被災から7か月が経過した輪島市と和倉温泉を視察、3日目の午後、限られた時間でしたがレンタカーを借りて訪問しました。金沢からは車で約2時間15分、道路状態もやっと仮復旧状態の箇所がいくつもあり、まだまだ復興へはかなりの時間を要する現地で、ようやく仮の出店が始まったばかりの朝市組合の皆さんから直接お話を伺いました。

実際に現地に足を踏み入れてみて、改めて被害の大きさ深刻さが感じられ、決して他人ごとではない、自分事としてとらえなければとの思いです。





私が議員になってから14年目になりますが、この間だけでも東日本大震災・熊本地震、そして能登半島地震と、それぞれ現地に足を運びお話を伺ってまいりました。地域性は違いますが、いつ起きてもおかしくないといわれている首都直下地震に備えておくことが、どれだけ重要なことかを改めて肝に銘じたいと思います。

7月10~11日 文教常任委員会 行政視察

今期2年目の文教常任委員会視察は2日間で、岐阜市と京都市の小中学校を訪問し、それぞれの特徴ある取り組みを視察しました。
増え続ける不登校児童生徒、深刻ないじめ問題への対策、そして学校と地域の連携など、様々な課題を再認識しました。

「異年齢集団学習」 岐阜市立則武小学校

岐阜市では令和元年7月、市立中学校の生徒がいじめを苦に自ら命を絶つという、大変痛ましい出来事がありました。

これを受けて、教育大綱を改定し「誰もが生命の尊厳を理解し、一人ひとりが価値ある大切な存在として互いに認め合う教育を推進する」ことを基本方針として掲げ、自らの選択と行動によって、幸せな未来をつくり出せる力を育む教育を推進しているということです。

訪問した市立則武小学校では、令和3年度より様々な学習活動において、イエナプランの要素を取り入れた「なかJスクール（異年齢集団学習）を実施し、学校の教育目標として掲げる「自立・共生・創造」を育んでいます。



いじめ問題については世田谷区においても不登校問題とともに大きな課題です。教育大綱を改定した岐阜市の「異年齢集団学習」の取り組みは、児童たちの居場所としても大事であり、問題のあった上級生が下級生の面倒を見たりする光景もあるそうです。
そして家庭とのかかわりについては、民生委員・児童委員の力をかりているそうです。やはり地域の力が不可欠です。

「学びの多様化学校」 京都市立洛友中学校



京都市は不登校児童・生徒への支援策としての学びの多様化学校（不登校特例校）を、既存の校舎を利用して設置しています。

平成19年に開校した洛友中学校は、不登校を経験した昼間部（学びの多様化学校）の生徒が、学齢超過の義務教育未修了者を対象とする夜間部（二部学級）の生徒との世代や国籍を超えた、ふれあいや学びあいを通して、学習意欲向上と集団への適応を目指す全国初の学校です。

世田谷区では不登校児童・生徒が増加し続けており、現在区内で約1500名にもなっています。まもなく区でも学びの多様化学校を開設予定であり、今回の視察をおおいに参考として進めていかなければなりません。

